

問2 その他 意見

- ・分団単位ではなく広域単位で選手選考してはどうか。
- ・地域には消防団は必要。手当を上げれば団員増につながるのではないかな。
- ・火事、台風等の災害時に役立つ訓練がしたい。
- ・各団にて定期的に団全員が操作方法を指導して、行なえる準備は必要とは思いますが。
- ・コロナ禍で、人数が集まる行動が制限されているので消防車のメンテナンスも難しくなっており、バッテリーあがり等出ているので、団員の1名乗車での充電走行も認めて頂きたい。
- ・全体で訓練を数回したほうが良いとおもいます。
- ・消防団全体で合同訓練を年に数回行う方が能力が向上すると思います。
- ・以前、地区別に基礎訓練を行った様に、年2回、小型ポンプによる放水、整列訓練、又、実践に向けた訓練など行ったらどうか。
- ・操法訓練、操法大会の代わりに各地区にて放水訓練などを年数回、開催した方が実際の火災時に役に立つのではないかな。
- ・火事場に消防団が出動して、必要な事柄を訓練すべきだと思います。消防団の車の運転、放水のためのエンジンのかけ方、ロープの結び方など、初歩的な事を、団員全員が学ぶべきだと思います。今は、限られた団員しかできないと思うが、もし、必要な時に、その団員が出動できない時にどうするのか。団員の力量の平準化を図るべきだと思います。
- ・消防団も高齢化してきているので若い人を入れられるようにしてほしい。長い間消防に入って代わりに入る人がいない。何年も人がいないので同じ人が何回も操法をしなくてはならないのでなんとかしてほしい。
- ・消防団は、あくまでボランティアだと思っているので強制されることは不快でなりません。責任ある仕事を望むなら公務員の休日出勤並みの報酬を望みます。有償とはいえボランティアでは、そこまで責任持てません。(ボランティアなので望んでません！つまりそこまで責任も無し) まといを貰ったから定員を入れないといけないとか意味わかりません！出初式もおかしい事だらけ。地元を守る本来の消防団のあり方を教えてほしい。言いたいこと沢山あります！
- ・退団の年数を本部で決めてほしい。
- ・選手の時、練習のため会社を欠勤させられました。
- ・時代とともに変えていくことができないものは廃れていきます。今回のこのアンケートが意味のあるものになることを願っています。
- ・他の団員との交流、資器材を取扱う良い機会ではあると思う。
- ・操法は考えられた素晴らしい訓練だと思いますが、近年では操法用ホースも貸して頂き操法に適した良いホースだとは思いましたが、お聞きしたところ価格は高く破れやすいと聞きました。そういう機材を使用するよりも支給された機材で競う方が本来の訓練だと思うのですが？
- ・これからの消防団のなり手を考えないと、消防団の存続ができなくなる地域もでてくる

と思う。

- ・今回のようなアンケートを全団員対象として実施することは有意義です。アンケートの結果を団員に示していただきたい。
- ・消火活動の基礎訓練は必要ですし、指揮命令の訓練も必要だと思います。大会をやるのであれば若い団員と幹部の団員が一緒に出る、判断力も必要な訓練大会が良いと思います。それと練習時間を偽って無理な負担を団員にかけている団もあると聞きますので、そのへんも改善が必要な気がします。それが消防団のイメージを悪くしていると思います。操法大会経験者や若い団員による操法大会改善委員会的なものを作ってもいいと思います。消防団幹部だけで話しても団員の意見は伝わらないと思います。
- ・操法にちなんだ訓練は必要だと思います。ただ、資料にもあるように水害等の訓練を今後、考えていく必要があると思います。
- ・地域自体、高齢化が進み団員確保が困難。操法への不満が理由で入団を断られている。
- ・消防団は、地域にとって必要不可欠な存在ですが、現在、少子高齢化もあり、且つ、山間部は高齢化が進み、団員の確保ができない状態です。この状況を変えるには、大きな変革が必要だと思います。今までのやり方に拘らず、改革を進めて下さい。
- ・年々、団員の年齢が上がる中、若い新入団員の加入が望めない中、選手として参加が難しいので必要でない。
- ・いろいろな面でレベルアップしたい。
- ・操法訓練に必要となる費用を装備品に充てるのが望ましい。
- ・あまり負担にならないよう効率的な訓練・点検を実施し、有事の際に家族はもとより地域の人々を守る力を身につけたい。
- ・本来、入るべき町からの入団が少ない。消防団員の人間関係から、他の町からの入団が多い。
- ・消防団員のボランティア性がネックになっている。仕事の一環として福利厚生を充実させ、給料として渡せば良いと思う。
- ・私が25年を振り返り思うことは、消防団はボランティアなので交流して、向上して、貢献することが大事だと思います。
- ・火事や災害がないことを祈ります。
- ・各地区で代表者を出して大会に出場したら良いと思う。
- ・最後はタイムが速い方が優勝するので、もう少し基本動作を優先してほしい。
- ・少人数の団や高齢化が進んで選手不足の団もあるので、各地区から数名選手を出し合うやり方が良い。
- ・仕事が県外なので日が合わない。
- ・出場したい団だけ出て開催すれば良い。
- ・このようなアンケートの手法に問題がある。一部の団では、団長をはじめとした幹部の意見で統一したり、他の分団との兼ね合いで意見を統一する団もある。団員一人一人の意見を問うアンケートが一部団員の意見を反映するものとなっている。LINE などを使ってアンケートを簡単に取り、集計できるツールがあるのになぜ使わないのか。無駄に

不公平なことをしているだけ。

- ・大会に出ることで団の団結力や絆が深まり良いと思うが、地域によって力を入れているところ、とりあえず参加できれば良いと思っている団があるのが残念。
- ・実災害に合わせた活動が何より必要。
- ・新入団員が少なくなり、退団しにくい。
- ・災害想定訓練を積極的に行い、団員一人一人が高い意識をもって訓練できる環境づくりが必要。また、魅力的な地域の代表者と思える訓練をやってほしい。火災時の風向き、周囲の建物、水利確保の訓練も有効ではないか。
- ・団員への活動手当の支払い方法が団によって違うようだ。不正を防ぐためにも各団ではなく本部から統一した形で各団員の通帳に送金するべき。そうすることで、幽霊団員の存在を予防できることにつながる。
- ・消防車庫や倉庫の敷地内に一般車両が駐車してあることがある。災害出場時に邪魔になり危険である。
- ・操法大会を経験したことにより、消防活動に対する意識の向上、自信は生まれます。ただ、現状のように操法大会に特化した団活動があることで新規団員募集にブレーキをかけていることも事実です。
- ・近年、様々な災害が起きている。都市部と山間部では起きる災害も違う。地域に特化した災害について考え訓練をしても良いのではないか。（土石流、川の氾濫、集中ゲリラ豪雨、水没事故等）
- ・体力勝負が必要な面があるので、若い方の入団が要である。全国的にもPR等が必要。
- ・あくまでボランティア。家庭、仕事を持った有志である事に配慮が必要。甲子園を目指す球児ばかりでなく、趣味で野球を楽しみたい高校生もいる。操法大会で優勝することが目的ではないと考えます。
- ・定員を減らしても良いと思う。
- ・備品についてですが、台風時の出動で胴長が欲しい。冠水したときに、長靴だと水が入り寒い思いをした。あと、合羽も長時間の交通整理で雨水が浸透して寒かったのもう少し厚めの合羽が欲しい。
- ・団員の意識の向上を目指す訓練をお願いしたいです。
- ・最近ようやく安全靴が貸与されましたが、それよりももっと丈夫な合羽や長靴、防寒衣なども検討してほしい。資機材も、もっと充実したものにしてほしい。例えばスパコンの導入など。台風時の水防活動についても、年1回の訓練で、実際に動けるわけがない。豪雨で被害が出た場合にどこまで対応できるかも自信がない。被災地での消防団員の姿を見ると自分が情けなくなります。
- ・救助活動訓練を取り入れてほしい。
- ・林野火災、震災救助等の訓練が必要です。
- ・消火の訓練よりも救助の訓練が大事だと思います。
- ・各分団で教えていける人材を育ててほしいです。
- ・消防学校の訓練・指導は必要だと思う。

- ・仕事をしている人は、夜の訓練は厳しいのでは。
- ・水防訓練ほか、いざというときに、まず自分の命を守ることも大切。団員の命を安全優先でお願いします。
- ・水防訓練の必要性を聞きたいです。土嚢積みをいつも、やっていますが河川の決壊で、あのような土嚢積みで対応できるのか疑問です。いろんな積み方をしていますが、印象に残るような作業がありません。ポンプ車を使って水を入れ、土嚢が崩れない、もしくは水を完全に止める作業をすると、結構盛り上がると思います。風水害や土に埋まった人命救助（人形）など、いろんな作業があると思います。松阪市の水防訓練は、土嚢積みばかりでワンパターンではないでしょうか。
- ・消防団自体考えものです。
- ・新入団員を誘うにあたり、操法のことを説明すると必ずと言っていいほど断られる。手当のこと、住民協議会のことなどもそう。住民協議会の行事にも消防団員が駆り出されるのは、正直迷惑である。松阪市にお願いして、消防団を住民協議会から外してほしい。
- ・消防団員としての基礎の訓練など研修があったら良いと思う。
- ・災害現場に出動するうえで団員がその日、何人出動しているのか、把握しているか。夜間、台風、土砂、瓦礫の撤去作業等、団員同士ペアを組ませて、互いの無事や、これ以上の危険への抑制をしていくべき。新団員も入団してきているので、土嚢の場所などの把握も必要。
- ・市の大会は、新人だけで行うべき、県、全国へは希望者をつのるべき
- ・新人対象で行う意味はあるかも
- ・脚絆をもっと簡単なものにしてほしい。
- ・時代に合わせて消防団が変わっていく必要がある。
- ・操法用具に差がある。
- ・操法選手や指導員への配慮をお願いしたい。選手や指導員は貴重な時間を費やしている。
- ・操法で得たことは貴重であり、この先で活かされることもあると思う。
- ・地域に消防団は必要ですが、人口減少しているのに消防団員数の維持は難しいです・
- ・地域での団員数や年齢層に差が激しいため、団員及び班の統廃合を行ってほしい。
- ・団への加入は簡単であるが、退団は自由でない（承認を得る必要がある）のはおかしいのではないのでしょうか。
- ・日頃の訓練は、現場で役立つものを特に集中してやってもらえれば、実際の現場での対応能力も上がると思う。
- ・操法訓練、大会にかかわるつもりは一切ない。強要されたら消防団を抜けます。
- ・練習としては大切なことと考えますので、過去のイメージを払拭し前向きに取り組めるように工夫してもらえればと思います。
- ・すべて幹部の自己満足
- ・練習などに時間がさけない。
- ・プライベートの時間を割いてまでやる必要なし。やりたくない人ばかりなので廃止すればいい。

- ・今後継続されるなら、出場したい人だけでチームを構成して出ればいいのか。今は時代も変わり市外へ働きに行っている方も多く、操法の出場選手に選ばれたら、練習のために仕事を早く切り上げたりとかなり負担が高くなるのでは。
- ・操法選手をしなければいけない状況になったら退団する。
- ・アンケートにやっつけ感が否めない。質問設定をもう少し工夫しては。資料も全て読むには読みにくい。
- ・今後、過疎化が進む地域では出場する体制を維持するだけでも困難な地域が増えることが考えられるため、各方面団、各分団等による操作訓練を充実させることに注力した方が良いと思う。
- ・無線機や防火衣を活用し島田折ホースも利用するなど実践に即した操法訓練を行った方が良い。
- ・防火水槽の使い方を教えてほしい。
- ・毎年同じことをやるのではなく、有事の際に臨機応変に対応できるよう、毎年課題を変えるなどして、実践的な操法にした方がいいと思う。
- ・毎年は必要ない。3～4年に1回程度
- ・訓練を多くすれば操法は必要ないのでは。
- ・団員が少なくなるので操法の選手を出すのが大変。
- ・ただ入団する。やむを得ず勤めるものではないので、いかに地域に対して貢献するかが団のあり方であると思います。「カタチ」だけの行事ならやるべきではないと思います。
- ・操法訓練は必要ないがそれに変わる習得訓練があれば良い
- ・一致団結するには、操法は役に立つものなので、それに代わる何かがあれば良いと思う。
- ・指揮系統を訓練する、意識する何かが必要だと思う。
- ・台風や他の災害の対策、訓練をした方が良いと思う。
- ・あくまでボランティアなので人によって意識（消防団活動に対する）の差があると思いますが、より実践に近い、役立つ訓練を企画して頂けると嬉しいです。
- ・操法訓練・大会が絡むとメンバー集めや勧誘が消防団に参加するネックになる。
- ・火災や災害に地域密着した訓練活動を重視した方が人も集まりやすいと思う。
- ・もっと魅力ある活動を構築していけば団員不足も解消されるのではないかな。
- ・大会も練習も大変だったが、良い経験にはなったので良いと思う。
- ・実際の消火作業は消防士が行い、消防団は交通整理や雑務が主な役目だと思うので操法の必要性は低いと思う。
- ・操法などの強制訓練が消防団新入勧誘の壁になっていることは明らかだ。
- ・操法でなく、救護や災害時に役立つ訓練（避難所運営など）が必要だと思う。
- ・操法をやめて、それにかかるはずであった費用を資機材等の補充にあてるなど、災害時に備えるべきである。
- ・コロナがある程度収束するまで自粛を続けるべき。
- ・操法に対してマイナスイメージが大きいので、「是非やりたい」と思える訓練の仕方次第ではないか。

- ・難燃性の建築材の普及により、消防団の役割は消火活動よりも、津波、洪水、土砂くずれなどの水防活動に重視されるべきと考えます。また被災により長期の避難所生活を強いられてしまった際の避難所運営の支援ができる団員の育成も重要だと考えます。団員1人ひとりが地域で主体的に防災活動ができるよう、その時その時の必要に応じた訓練や研修の機会を与え、団員のレベルアップを図ることは肝要と考えます。
- ・人員（選手）確保が難しい。
- ・伝統を引き継ぐことも大切！しかし、時代にあったように変化させるのも大事！
- ・各分団での持ち回り操法はやめるべき。
- ・各地域にあった災害対応訓練に時間を費やす方が、地域住民、家族を守ることができる。
- ・操法大会は過度に好成績を担うなど、プレッシャーがかかる。操法以外の方法で実際の火災、災害に役立つ基礎訓練を団員全員に身につけるのはどうか。
- ・操法を本当にやりたい人たちがやればいい。周りを巻き込まなければ。
- ・年間で決まっている訓練では少ない。いざという時に対応できないのが現実です。誰でもいつでも好きな時に強制的でない訓練を行える環境づくりを各消防団、各分団で作りに上げていくことが大切ではないか。
- ・コロナ禍の状況下で参加メンバーを限定しての訓練、また訓練自体の中止が続いている。新入団員はもちろん、定期的な訓練を実施していかないと有事の際に、消防団活動が安全・確実に実施できないのではないかと感じている。
全体で実施ではなく、分団単位、または分団の班単位等で1回の参加メンバーをしばらく定期的な訓練を継続して実施することを検討していただきたい。
- ・現在は、ごく一部の団員だけの消防団活動になってしまっている。例えるなら大人の部活動。人、時間、予算のムダ使い。嬉野だけが活動服、その他装備の支給も遅い気がする。その反面、操法に関する物は早い。この差は何！行政も管理できていない。
- ・ポンプの使い方がわかればよい。
- ・市内在住の成人に団加入の義務化
- ・消防活動において重要なことは周知、共有は良いと思うが無駄になるようなことはやめた方がよい。
- ・団員の年齢が上がり、操法大会に出る体力がない
- ・新規団員がおらず既存団員の負担が増え、退団を助長しかねない現状です。団の運営を自治体とともにすることで、地域住民全体が他人事ではないという常識を作らないと、今後の運営は不可能です。また、運営を一つにすることで、自治体、自治会、消防団の地域防災における連携が確定なものになると思います。団員の性別により活動内容が異なることは、時代錯誤の何物でもないと思います。
- ・地域、生命、財産を守るのが消防団の目的であるとすれば、地域で消防団を支えてもらう必要がある。消防団が地域で必要ならば人員確保も地域に協力してもらう必要がある。
- ・地域に消防団員が災害時の必要なものであれば、地域が納得して、人員確保に最大限協力してほしい。また、入団から退団までのルールも必要。本部へ上がる人（幹部）のルール

も必要。

- ・ 人員確保に公的な支援を
- ・ 社会情勢を踏まえて、時代の変化に応じた活動や存在意義などを考慮した運営をお願いします。
- ・ 操法は大会に出た人でないと必要性を感じづらいが、出た後は「やって良かった」と思った。働き方が多様になっているので、いろいろと考えなければならない。
- ・ 特に若い世代からは、操法訓練のつらさと大会の意味を見出せないことが消防団の印象を悪くしている部分はあると思う。操法も要因の一つと思うが、団員の維持・確保が非常に難しくなっている。消防団の意義と必要性を感じられないからだと思う。実際、自分も10年近く在団しているが、団員でよかったと思うことも、消防団が必要だと思うこともないし、逆に団員への活動費も税金だと考えると、有事の際に役に立たないであろう人員を抱え、税金を使うことに意味があるのかと思う。その費用を本職の消防職員に回して人材の確保や装備の充実を図ったり、消防団としての形を残すなら、人数を絞って副業程度には成り立つくらいの報酬に設定して訓練の頻度を高めるとかするほうが（本職がある以上、いざというときに出動できない問題もあるが）、地域の防災に役に立つのではないか。どうしても消防団が必要な地域というのが存在するのかもしれないが、幸い当地域は消防団の必要性を感じられない（と、思っているだけかもしれないが）。必要であれば自治会にその機能に移した方がよいのではないかと思う。自治会からも「消防団は何をやっているのか」と厳しい目を向けられる時もある。本当に消防団が必要ならその必要性を示し、地域住民の賛同を得て、目的に沿った活動をする必要があると思う。過去からの続きや、善意だけでは人は集まらない動かない時代になっていると思う。
- ・ 企業の理解がなければ入団者がいないのでは
- ・ 操法の訓練や大会はとても良い経験になった。ただ、何回もしている人や1回もしていない人がいることがよくないと思う。大会があるなら全員経験すべきだと思う。
- ・ 全国各地で自然災害が発生しています。それに伴う消防団員の痛ましい事故も報道されています。個人的には活動中に事故が起きてはいけないと思っています。撤退することの大事さなどを啓発していただきたいです。
- ・ 操法自体は必要だと思いますが、時代に合わせ、簡素化、省略化していくべきだと思います。
- ・ 消防関係の活動から離れすぎで不安です。
- ・ 操法訓練に拘らず、実践に即した訓練が必要だと思う。
- ・ 防火服は何故に着なければいけないかや、消防団など座学も含めた消防人としての勉強もしてはどうか。
- ・ 操法大会に向けた練習を減らす代わりに、他の訓練を増やしてもいいと思う。
- ・ 訓練を増やすことで確かな技術を身に付けてもらう。
- ・ 団員皆さんが（出席）出来る訓練を考える。
- ・ 今までの訓練方法見直しを